

「エネルギー効率向上の重要性」

日本はエネルギー源のほとんどを輸入に依存する、エネルギー自給率の低い国である。しかも、地球温暖化対策がグローバルな課題として取り組まれる中、再生エネルギー源への移行は遅れ、化石燃料への依存率が依然として高い。特に最終エネルギー消費の抑制が遅れている運輸部門や家庭では、エネルギー消費の効率化を考えることが重要である。例えば、住宅・商業ビルでは開口部の断熱が最も弱いので、アルミサッシ単層ガラスを樹脂サッシ複層ガラスに取り換えるだけでも熱効率を大きく高めることができ、日本でもそうした取り組みの促進が必要だ。また、輸送機器部門では構造材の軽量化がエネルギー効率向上にもっとも貢献する。配管による流体の送り出しと受け取り場所を近接させ、直角曲がり配管を回避することも、エネルギー効率の向上につながるが、設計時点で配慮されていない場合が多い。日本は再生エネルギーの導入を進めるだけでなく、不規則に変動する再生可能エネルギーを電力需要に対応させて有効に利用するためには、発送電を制御することで安定化させなくてはならず、末端での蓄電や余剰電力の利用、周波数の違う東西間での電力融通もさらに進めるべきである。日本政府や電力会社の対応を待つのではなく、エネルギー消費者である私たち自身が意識的に行動し、働きかけていくことが重要である。